

【巻頭言】

第5回国際ジオテキスタイル学会シンガポール国際会議について



IGS日本支部行事委員会
委員長 坂口 昌彦
(大成建設(株)技術研究所)

本学会 (IGS) は、1977年からの揺籃期より、1983年に International Geotextile Society として発足して以来、今日では総計1700名に及ぼんとし、建設技術者をはじめ材料製造技術者などの広い専門分野の会員 (個人、学生、法人) を擁する独特の学会であります。

本年は、国際ジオテキスタイル学会の最も大きな行事であり、4年に1回開催される国際会議が、5回目を数え『Fifth international conference on Geotextiles Geomembranes and Related Products』として1994年9月5日から9日までの5日間、東南アジアの Singapore にて開催されました。

会議では、280編の学術発表はもとより、シンガポールのYao建設兼軍事大臣を来賓に招いての Opening Ceremony をはじめ Council Meeting、Award Ceremony、General Assembly、Special Lecture、Keynote Lecture、Reception、Conference Banquet および Closing Ceremony に至る盛大かつ多岐にわたる行事が Raffles City Convention Centre の会場にて行われました。

開会前日の Council Meeting では福岡日本支部長はじめ14名の理事の出席のもと、予算決定、支部承認、時期国際会議開催地決定、名誉会員推挙、新理事の決定、委員会委員の決定、次回 Council Meeting 開催地の決定などの議事が行われました。

Opening Ceremony では、Dr.Giroud による特別講演がおこなわれ、ジオシンセティックスの挙動が理論解析によって定量化されることの実例を挙げた講演でした。

Award Ceremony では日本の龍岡東大生研教授、鉄道総研の垂水部長らによるRRR工法がIGS学会賞を授与されました。General Assembly では新たに UK の Prof.Jones が会長、Canada の Bathurst が副会長に当選しました。日本の龍岡東大生研教授はじめ新しい理事が紹介されました。最後に Dr.Rowe が退任の挨拶をしましたが、彼が会長として力を注いだ支部の増加も4から12となったことに加えて日本の支部活動についても賛辞しました。

Keynote Lecture は、補強土関係を Canada の Bathurst Royal Military College 教授、水理関係を日本の赤木東洋大学教授、環境関係を Italy の Cancelli Milan 大教授と Czzuffi 氏が担当されてそれぞれ素晴らしい講演をされました。

発表論文総数は前述のように280編でした。論文発表は口頭発表とポスターセッションの2つの形式がありましたが、口頭発表ではこれらが42のセッションに分けられ、さらにそれらが Reinforcement,Hydraulic,Environment の3つの応用と関連研究テーマに区分されました。それら3つテーマが、それぞれ3つのホールに分かれて同時に平行して進められました。この内日本からは、14セッションに於て21編が発表されました。

Reception や Conference Banquet は、参加者のほとんどが同時に顔合せできる機会となりましたが、この国の料理や伝統の舞踊の披露、出席者の飛び入りなどもあり楽しいものでした。また、久々の再会や同じ分野の人達で会話がはずみ終始なごやかに運びました。

展示会は、出展数が56であり、内容は主にジオシンセティックス製品の紹介でしたが、日本からの出展は、昨今の経済事情もあってか3社と少なく残念でした。

全登録参加者は44ヵ国632名でしたが、日本からの登録参加者は総計97名になり、最も参加者の多い国となりました。IGS日本支部行事委員会では、福岡IGS日本支部長を団長とする『第5回国際ジオテクスタイル学会国際会議参加旅行団』を組織しました。計画にあたっては日程を1994年9月3日出発～9月10日帰国（6泊、1機中泊、8日）とし、5日間に及ぶ会期、東京以外の都市からもシンガポールへの航空便があることおよび本会議の前後に当地で開催される別の会議などを考慮して、従来のような一つの旅行団のみとはせず、東京発のメインのグループの他に、シンガポールへの航空便がある各都市からの出発および日程の短縮延長などが可能な、フレキシブルな第二グループ旅程を加えて企画しました。この結果、50名の大旅行団となりました。この他にご自分で直接会議に出席された方も多数居られ、このようなことからわが国は参加国中最多の100名近くの参加となった訳です。

さて、わがIGS日本支部行事委員会と致しましては、本年の最大のイベントである第5回国際ジオテクスタイル学会参加発表を成功裡に収めることができ、さらに11月1日には、『第5回国際ジオテクスタイル国際会議と海外の事情』としてIGS日本支部講演会を開催しました。講演は日本からのIGS理事の方々に加えて特別にオランダの Voskamp 氏にお願い致しました。これまでの講演会の最高の出席者数を得て、会議への参加がおできにならなかった方々に国際会議の状況と併せて海外の事情の報告を致すことができました。

今回は本ジオテクスタイル技術情報1994.12によって『第5回国際ジオテクスタイル学会シンガポール国際会議特集号』としてさらに多くの方々に国際会議の全てをご報告できることは行事委員会の喜びとするところであります。

わが日本支部も、設立10年目を迎えて本部理事も増えました。また、様々な活動も定着して参りました。今後とも言語の壁を乗り越えて、さらに大きく国際舞台に活躍をしたいものです。第n回会議の招致も決して夢ではありません。皆様の更なるご健闘をお願い致します。本年もあと僅かを残すところとなりました。どうか会員の皆様にはよいお年をお迎えになりますようお祈り申し上げます。